

オホーツクの風

発行所

北見赤十字病院の
明日を考え支援する会
事務局

北見市緑ヶ丘1-10-16

Tel 0157-61-0684

平成25年1月31日(木) 新年号 0008号



2013年

新春懇談会

(出席)

北見赤十字病院
病院長・吉田茂夫、総務課課長・真壁寿一
同主事・佐藤圭悟

北見赤十字病院の明日を考え支援する会
代表・谷川勝男、表宏樹、平林守、
阿久津俊子、阿部孝子、中田ふみ子、
古澤尚子、逢坂富台(司会)

新病院の建設 状況のあらまし

直壁 作業所が発
行する「かわら版」
によりまずと基礎工

事。免震部分のコン
クリート打設、配筋
工事などが進行中
で、1月末からは型
枠工事が始まりま
す。今年の12月に
は外枠が立ち上がり
内装は6階まで工事
が進む予定です。

吉田 いつもお世
話になって居りま
す、歳が明けて今年
もよろしくお願いを
致します。

今、課長の方から
話がありましたた
が、新病院は6つの
工区で順調に進んで
います。現在、免震
構造の基礎の捨てコ
ンを打っています。
同時に、倉敷で免震
装置を造っていま
す、3月に入ると現
場に到着し、据え付
けが始まります。
免震構造体は鋼鉄
のスプリングと生ゴ
ムで出来ています。

これはマイナス50
度まで耐えられま
す。これを何十基も
敷設し、その上に建
物を建てます。
これが出来上がっ
たら、めったなこと
でつぶれない、災害
に強い病院の免震構
造が出来上がります。

今は足場が悪いの
で、工事の場面・場
面で、都度、皆さん
にご案内を致しま
すので是非、現場を
見て戴きたいと思
います。

近代的内部体制 への取り組み

吉田 工事は順調
に進んでいますの
で、病院は新病院の
運営の近代化に取り
組んでいます。いろ
んな事があります
が、患者さんと家族
のことや病院で働く
従業員のことに付
いて話し合いをして
います。

例えば、患者さん
が診療を受けるまで
の待ち時間が30分
から1時間ほど掛か
っています、その待
ち時間をどう縮める
か、また、その待ち
時間をどう過ごすか
といったことです。
医師、看護師の役
割が専門特化してい
ます。私もそうです
が、医師の一番面倒
くさい仕事は診断書
や書類を書くことで
す、とても時間が掛
かり大変です。これ
を解決する方法とし
て、別の専門職制度
を作ってカルテなど
の情報管理を専門職
が引き受けてくれる
時代になりました。
ただこれもすぐに
は出来ません、医学
の専門用語の勉強な
どが有り、スタート
するには何年かの準
備期間がいります、
その準備に取りかか
っています。メディ
カルクラウドという
名前を付けようと思
っています、だだの
事務職でなく医師と
話しが出来る専門知
識やコンピュータに
強い人を養成して行
きます、おそらく3
0人とかそんな数に
なると思います。
谷川 この制度は
どこかでやっている
のでしょうか？
吉田 すでに国で
スタートさせていま
す。今、うちには8
人くらいいます、今
まで医事課でそつゆ
う事をやっていた居
た方を転換させてい
ますが、それだけで
は足りないので新し
く雇用をします。
医療、介護は雇用
を増やすと云われま
す、この分野でも若
い人の雇用が生まれ
ると思っています。
今一つは近代的
で、快適な病院にす
ることです。病院は
大事な社会資本で、
いろんな人が出逢う
所です。そこで、ア
メニティ機能を充実
するために、いろん
な議論をしています
。企業のコンペテ
ーション、いわゆる
企業提案型で先般よ
うやく決まりました
。(2面につづく)

光陽という会社に

運営を任せる事になりました。本州の大手ですけれども、全国のおたくさんの病院を手掛けている企業です。自前で焼くフランスパンや地元食材を使った弁当や地物などを産直する店舗を作ります。患者がくつろぎながら、ここで会話を楽しんだり病気の情報などを調べたり出来る情報・図書スペースを併設します。医療に関連する図書や新聞、机やコンピュータを病院で用意します。病気のことやコンピュータを使えるボランティアの皆さんなら、患者さんと同じ気持ちになれますから相談もしやすいと思っております。ただ図書の貸し出しは大変難しいと考えています。今後ボランティアの皆さんと話し合ってみようと思っております。

設けられます。緩和病床は200床で、医師も1名が確保でき、2名体制で運営します。良い先生がきてくれて有り難いと思っております。歯科口腔科に關しても、先日、人事募集をしました、良い返事が来ています開院に向けて研修医と歯科衛生士の体制になります。地元歯科医師会も期待をしています、また多くの身障者の方を支えること出来ると考えています。いろいろな準備が進んでいます、なんと云ってもコンピュータの問題がありません。地域の医療機関と介護施設との連携が非常に重要になってきます、そのためコンピュータの整備を進めています、実際にどうゆう問題があるのか、またコンピュータの進歩が早いので、地域の方と一生懸命やっているところと

事務部門、新年度への取り組み

直壁 一つは病院がきちんとした健全経営でいくことが大切になります。お陰様で2期連続

で赤字と言ったこと、今期も何とか頑張った、25年度もそれを続けたい、やはり母体の経営がしっかり出来ていて、初めていろいろなものに投資が出来ることが生まれてきますから、事務部門としてはそこをしっかりとやっていきたいというところ。あと今、病院長からお話がありましたけれども、新しいことに向けて準備をしなければならぬので、我々事務部門が新しい病院で新しい方法で診療が行われていくまた人の役割が変わっていくそしてチームで仕事をしていく時の土台を作

会員の日赤への希望、熱き思い

を確実にやっていくこと。と言うのが25年度の二つの大きな仕事だと思っております。

谷川 院長が話されたことを簡単なメモをしながらお聞きしました、建物も含めて新しい日赤病院が全国レベルでみてもらう病院に、そうだと受けとめて、すごくうれしく思いました。中身の問題ではない、いろいろ難しいことがあるけれども、病院の内容を充実させたり変えていかなければならないと、僕が予想したよりはるかにつっこんだところで話し合いがされていく様子が見えてきました。中田 前にも言いましたけど、患者は不安な気持ちなので問診の時に先生が一言二言声をかけてくださると、すごく心

が和むと、私、それだけです。なんか貝わいが悪かったのがちよつと良くなったように感じて帰ります。

吉田 そうなんです。まあ医学教育の問題もあるんですけどね。古澤 去年、日赤に随分お世話になったんです、眼科、形成外科と脳神経で。もう一つは小林病院で整形外科と循環器です。まとめるという感じではなかったんですが、整形外科は日赤に行きたかったのですが、紹介が無ければダメだと云われました。何故なんだらうかと疑問に思っています。吉田 あのそれは完全予約制のことです。当院では直接かかれぬ科が4つあります、内科、それに循環器内科と消化器内科の4つがかけられないです。それは開業医の先生の紹介で見る

ことに制度的になつています。この他の科はかかれます。だから申し訳ないんですが軽い病気は、まず、開業医にかかって下さいという考えなんです。

阿久津 先ほどの院長先生の図書室のことですが、玄関ホールに作って下さると、これすごくいいなと思っております。実は私「大動脈乖離」をやりにして、入院して時に斉藤先生がこうゆう絵を描いてくださって「貴方の心臓から出ている、この大動脈のこの辺にビビが入っていて中から血液がにじんできたから痛いんですよ」という話を聞かされて、すごく納得したんですよ、だけど人に説明する時にはこの絵だけでは説明がしにくいです。そのつぎにこうゆうのを見つけたんです。「本による大動脈乖離の解説」、こ

れを読むとこの心臓から出た血液は時速四十キロメートルで体の中を流れていて、血管は三センチから四センチあつてとすごく具体的に一頁程の所に書かれています。

病気になった時に私たちが知りたいのは、一冊の本が知りたいのではなくて、その病気の項目を特

して行く方法もあり
ます。

病院の図書室です
から病気に関するこ
とに重点を置いてい
ただいて、恋愛小説
などは控えめにし
ただければと。

吉田 基本的に病
院ですから病気の図
書室です。そこに、
コピー機というのは
大変大きな考えで
ね。

土澤 すごくいい
ね。

吉田 はいわかり
ました。別に利益を
とるつもりはないで
すから、いいこと
ですね、わかりまし
た。

阿部 私は夫の病
気のこと、希望を
といいますか、お願
いしたいことがある
んです。夫は平成7
年に呼吸不全にな
り、こちらの救急救
命センターに入れて
いただいて、1週間
ICUでお世話にな
りました。そのあと
器官切開しまして自
宅呼吸器使用者第一
号だったと聞いてい

ます。その後、12・
3年ごろでしたか呼
吸器内科の先生方が
一度にお辞めになっ
た時からその系統の
市内のクリニックス
さんに回されたんで
す。それ以後、ずっ
と、その科だけは薬
も診察も全部その病
院のお世話になって
おります。その他の
2・3科はこちらの
病院にお世話になっ
ているのですけれ
ど、例えば肺炎で緊
急入院なんかする場
合、そのクリニックス
さんは入院施設がご
ざいませんで当然
日赤さんの方でお世
話になるかと思っ
たんですが、そうい
った場合ずっとお世
話になっていたクリ
ニックスさんと、日
赤さんとの連携プレ
イがうまく機能をは
たしていただけるの
かどうかが心配して
います。起るから慌
てふためたのでは
なくて、安心して
お世話になれる
かと考えておりま
す。

吉田 それはとて
も大事なことでし
て、先ほどの話と関
係ありますけれど、
うちの新患者の7割
は他の医療機関か
らの紹介患者です。
二次と三次の救急医
療と高度専門医療と
がうちの病院の地域
での役目なのです。
それで二次、三次の
救急救命医療と言っ
るのは他の病院から
紹介されて、今言っ
たような肺炎であつ
たり、呼吸不全であ
つたりという患者さ
んが対象になるわけ
です。ですから、今
かかられている先生
から紹介があった場
合、適切に対応をし
ますし、断ることは
まずないです。

平林 私がこれか
ら言いたいことは、
支援する会の中
でも唯一肺ガンの
手術経験者という
ことなから、実は
手術して2年半経
過して、ペット検
査や診療を1年に
1回やっています、
今のところ

る異常なしできて
います。術後の診療
が北見の病院では
対応が来ず、時間と
費用を掛けて、旭川
の厚生病院でお世
話になって居ります。
私の病気のことは
この会の「オホーツ
クの風」に詳しく
投稿をしています。
たまたま、私より
一年後に旭川医大
で肺ガンの手術を
した友人が術後の
診療は地元の小
林病院で出来る、
と聞いたものです
から、お手元にあ
ると思いますが、
小林病院と旭川
医大との医療連
携の実情という
ような堅苦しい言
葉を使って書いて
います。その中に
「外来診療担当医
一覽」を付けてい
ますが、友人の
聞き取りと合わ
せて判断しますと
旭川医大で手術し
た人の事後の診療
は小林病院と指定
されていて、そこ
で毎月木、金の指
定日に診て頂いた
と云うことで、こ
のような連携が日

赤では具体化出来
るのかどうか。そ
して、先日、ペ
ットCTなど提言
をしましたが、こ
れは幸い病院長
のご決断で実現
したことは有り
難く思っています。
連携やこれからの
進む方向について
どういうことになる
のか。併せて、お
伺い致します。

吉田 これは少し
詳しく話させて
いただきますが、
実はうちの病
院と地域の病
院と大学病院
との関係の話
なんです。ほと
んどすべての
病院は大学の
医局がサポート
しているんです。
例えば、うちの
病院はおおむね
北大、札幌医大、
旭川医大の3大
学です。ご承知
の通り呼吸器
と心臓の外科手
術は、道立病
院が担っています。
長い間、道立
病院が呼吸器
や結核もね。そ
れはお互いの
両方が住み分
けていた。それ
でうちの肺の
ところ

ぽりと抜け落ちて
いるんですよ。
現在、うちには
呼吸器科の専門
医もいませんし
肺をやっている
内科医もいま
す。ただ一人
ずつしかいません
からこの医者を
大事にしないで
はだめなんです。
たくさん患者さん
を診せられませ
んから表に出
してないんです。
病院の中で目
一杯なんです。
例えば消化器
の患者さんが
肺がんになっ
たら、山ほど出
てくるわけです
よ。そうゆう
人を診て貰わ
ないとこま
ちやうもの
ですから、表
に出して
いないんです。
小林病院は
これを見れば
昭和医大と
か色んな大
学から来て
いるんだと思
います。昭和
医大は東京
です。だから
なかなか大
変ですね、行
ったりする
のがね。これは
地域で一番
の課題です。
呼吸器科
も含めて呼吸
器科

外科をどうするか
と、非常に問題
なものは呼吸器
科の専門医が
少ないんです。
全国・全国的
に。僕も何
度も大学に行
って呼吸器科
の教授と話し
合っています
よ。やっている
ので、まあ新
病院になったら
送りませんと
リップサービ
スかもしれません
が言ってくれ
ています。ただ、
呼吸器科で何
故こうゆう問
題になっている
かと、一つは
タバコが関係
しているんで
す、治らない
です、治らな
いんです、治
らないです、
疾患喘息、肺
ガンこれぞと
いっていい
んです、ですから
患者はす
と増えていく
んですよ。そ
れと内科のな
かでは昔の言
いかたでニク
の一つなんです
よ、「大変きつ
い」そうゆう
のが呼吸器
なんです。突
然、喀血したり
するんですよ
。突然、喀血
したりするん
ですよ。突然、
喀血したりす
ると手当てを
しないとい
(4面につづく)

けませんよ、結核やさまざま菌が混じっていますので大変なんです。このように、難しい問題が有りますが地域医療支援病院としてひき続き取り組んで行きます。

表 「ガンは長生き病だ、長生きするからガンが出てくる。3人に1人だ」と家のかみさんが云っていたけど、たぶんそうゆうことではないですかね。まあ細胞が劣化してガンになっていくということなのかな、と私は勝手に思っています。

何処で死ぬかなといつも考えるんです。僕自身が思っているのは暖かいところ東南アジアぐらいで死ぬというのが私の夢なんです。でもそこは日赤よりずっとずっと悪い医療だし、それこそ保健もないので、どれぐらいお金がかかるかわからないんですよ

ね。まだしばらく時間があるから考えていきます。
先程、図書館の話ができましたけど、北見図書館には司書がいていろいろと助言をしてくれます。病院の図書コーナーに、ボランティアのアドバイザーみたいな人がいたら心強いですね。
まだ病気になるってないけど何かの時とか、ここ痛いけどすい臓ガンかなとか思ってしまうのが人間なんです。
そうゆう情報交換をたくさんする。今回、僕は会に入ってみて本当に分かる。そしてこの院長のスチンスが凄いです。これは市民の皆さんにもちゃんと解って貰わないといけませんね。

会の新年度事業のあらまし

逢坂 私共の会の平成25年度事業の概略をお話して、病

院のご協力や支援をお願いしたいと考えています。
平成23年の新年号でも採り上げたあのですが日赤を中心にした地域で一つの大きな病院というよ

うな考え方を基に、総合医で日赤OBの開業医の先生を紹介していただいて、そのお医者さんからいろいろな知恵を戴きながら「かかりつけ医」とどう付き合つかを今一度勉強したいと考えています。
もう一つは先ほど表さんからもありましたが、どこで、どうゆう死に方がいいのかという、「看取りと人の死」の問題があります。2025年、日本では年間160万人が亡くなると云うデータもあります。病院での対応は難しいと思います。そうなれば、自宅や施設が看取りの場所になります。看取と死について私たちは勉強しないとい

けません。それを話し合います。その内容をフォーラムなどで地域に発信する事を考えています。また、急性期病院(北見赤十字病院)の外園には地域が抱える医療問題がこのほかに、認知症や在宅での末期ガンへの対応などがあります。これらの問題は範囲が広くとらえどころがないのですが、自分ごとと組める身近な小さな問題から着手していこう考えています。



新春懇談会の結びにあたり

つきましては、医師や看護師さんと勉強をさせていたく、環境作りにご配慮いただきたいと考えています。
吉田 できるだけのご協力をしますの

で。間違いなく。今、国も高齢社会を迎えまして、いま言った言葉をつかわしていただくと、どういう場所ですという死に方をしたいかと言つのが大きなテーマになっていてるんですよ。
日本人は今まで考えなくても良かったんです、ところがだんだん普通の国になつてきているのでこの国でも考えている事を考えなくてはだめになってるので

是非いい機会ですので考えていただければ、病院に対する要望もまた変わってくるかと思えます。
谷川 今日ほど多忙にも係わらず、院長先生と懇談が出来たこと嬉しく感謝しています。
僕ら、こんなささやかな会ですけども活動してきて良かったと思つのは、この天下の日赤の院長先生とこんな風に膝をまじえていろいろお話をして頂けるとい



うのは、当初はぜんぜん想像もしていませんでした。
本当にありがたいと思います。
これから新しい病院に向けていろんなことがあると思いますが院長先生初め先生方や看護師さんのお話を伺ったり出来ればいいなと思つていますので、今後ともよろしくお願ひします。
一同 ありがとうございます。
編集後記
謹賀新年
昨年は大変お世話になりました
今年もよろしくお願ひ致します。
平成25年1月21日の午後、日赤の会議室をお借りして会の行事である「病院長との懇談会」が催されました。
その録音をテキストに起こす作業を阿久津さんと致しました。そのデータ量は3500行ほどでした。このデータを900行ほどの本文記事に整理しました。当方の偏見と独断でその作業を致しましたので不自然な所や舌足らずの部分があります。ご勘弁下さい。(逢坂記)